

ゲーム映像や音響の再生・制御技術を提供するCRI・ミドルウェアが、自動車向け事業を拡大する。2030年9月期のモビリティ事業の売上高は40億円と、直近から6倍以上に伸ばす。押見正雄社長は「これまでは走る、曲がる、止まるといった性能が重視されてきたが、今後は車載ソフトウェアの性能によって車の特性や価値が変わる時代になる」と語る。

—自動車関連ではどのような事業を手がけていますか。

「ゲームで培った音声圧縮などの技術を生かし、カーナビなど車内音声の制御システムやスピードメーターのグラフィックを提供している」

「車に機能を実装する際にシミュレーションソフト上で試せるソフト『メッシュ』を産学連携で開発している。ナビゲーションで目的地を設定したときに近隣のグルメ情報などを教えてくれる機能や、ラジオを聴いているときにユーザーの好みに合わせた番組を流す機能を簡単に試せる」

—メッシュは自動車開発にどう貢献するのですか。

「従来の車の開発は設計から実車テストまで長い時間がかかり、問題が見つかったと最初からやり直す必要がある。メッシュを使えば、車をつくる前の段階でシミュレーションができるため、より迅速に改良を重ねることができる」

「ゲーム開発で重要なトライアルアンドエラーの手法を自動車向け開発に取り入れている。ゲームは開発中に何度も体験テストを繰り返すことで品質を高めるが、自動車開発ではそのサイクルが1~2カ月と長くなっていた。メッシュによってこのターンアラウンド（方向転換）を短くし、ゲームのような高品質の体験を生み出すことを目指していく」

—今後の自動車業界をどう見えていますか。

「自動運転の普及によって車内での余暇時間が増えるため、ゲームをしたり、映画を見たりできるようになる可能性がある。そうなればソフトウェアによって移動時間のありかたが変わるとみている。企画・開発中だが、提供している音声チャット用ミドルウェア『テレクス』を車載など非ゲーム領域で展開していく」

「例えば車内にいながらカラオケを楽しめるようになる。イベント向けではライブ会場とユーザーをつないで現地の音を聴いたり、リアルタイムで会場とやりとりをしたりといった使い方を想定している」

（聞き手は岡村真帆）

押見 正雄氏（おしみ・まさお） 1987年（昭62年）早大理工卒、CSK総合研究所（現CRI・ミドルウェア）入社。2003年取締役。13年より現職。東京都出身。63歳。

【関連記事】

- ・オンラインゲーム、黒子が支える 負荷に応じてサーバー台数を調節
- ・CRI・ミドルウェア、「SDV」開発用の疑似体験ソフトを公開

許諾番号NK002421 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.



CRI・ミドルウェアの押見正雄社長